

昭和 34 年度自動車技術会通常総会

昭和 34 年度自動車技術会総会は 4 月 21 日、22 日の 2 日間にわたり、東京で開催された。

期間中第 13 回通常総会、第 9 回自動車技術会賞授賞式、学術講演会、懇親会、見学会を行った。

〔第 1 日〕 4 月 21 日 (火) 午前 9 時より 神田学士会館において次のとおり開催した。

1. 外車展示

自動車の高速性能研究補助事業において購入したメルセデスベンツ 300SLR とフィアットニュー 500 の両車両が 9 時から 30 分間展示された。

2. 第 13 回通常総会

本人出席 73 名、委任状 1,152 名で総会成立し、豊田会長議長となり次の議事を審議した。

1) 昭和 33 年度事業報告の件

吉城常任理事より説明があり承認された。

2) 昭和 33 年度決算報告の件

野寺担当理事より説明があつたのち島監事の監査報告があり承認された。

3) 定款改正の件

吉城常任理事より会費値上げについて説明があり、(会誌自動車技術の内容充実、支部活動の拡充等) 第 1 表の如く承認された。

4) 昭和 34 年度予算の件

野寺担当理事より説明があり承認された。

5) 名誉会員推薦の件

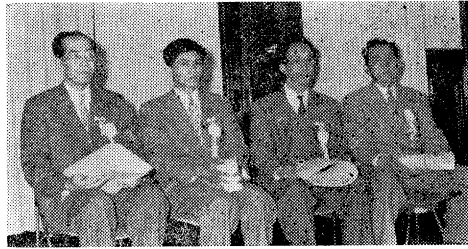


第 1 図 会長挨拶

第 1 表 定款改正

改正前	改正後
第 8 条 会員の年額会費は次の通りとする 正会員 800 円 賛助会員 1 口 5,000 円 とし口数は適宜定める 学生会員 400 円 名誉会員 会費は徴集しない	第 8 条 会員の年額会費は次の通りとする 正会員 1,000 円 賛助会員 1 口 5,000 円 とし口数は適宜定める 学生会員 400 円 名誉会員 会費は徴集しない
第 9 条 会員は入会するとき会員 1 名以上の紹介により理事会の承認を受けることを要する 入会金は左記の通りとする 正会員 100 円 賛助会員 500 円 学生会員 100 円	第 9 条 会員は入会するとき会員 1 名以上の紹介により理事会の承認を受けることを要する 入会金は左記の通りとする 正会員 200 円 賛助会員 2,000 円 学生会員 100 円

本改正は昭和 34 年 4 月 1 日より施行する



第 2 図 受賞者 (左より関、田中、齋藤、増田氏)

竹崎瑞夫、楠木直道の両君が名誉会員に推薦されたのち、楠木名誉会員の挨拶があつた。

3. 映画

映画「倣い旋盤のオートメーション」(GF 社製作)を映写した。

4. 第 9 回自動車技術会賞授賞式

川田正秋審査委員長の審査経過報告に続き、浅原名誉会員の挨拶があり、豊田会長より下記の受賞者に賞状、記念品、特別金バッジならびに浅原賞として、金ばいおよび銀ばいが贈られた。

学術賞

1) 自動車の騒音に関する研究

増田義郎君 (トヨタ自工)

2) 模型によるタイヤの力学的研究

齋藤 安君 (運輸技術研究所)

田中健一君 ()

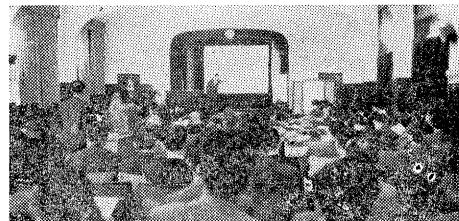
技術賞

1) 自動車用小型ディーゼル機関の実用化

関 真治君 (新三菱)



第 3 図 外車展示



第 4 図 学術講演会

昭和34年度自動車技術会通常総会

賞 状

1. 自動車の騒音に関する研究 (論文)

トヨタ自動車工業株式会社技術部
第1エンジン課 増田義郎君

右は自動車の騒音に関し、測定方法の研究を行いこれにより各種の騒音源につき詳細なる実験を行い、音の性質を解明し更に防音方法についても研究を行い幾多の有益な成果を発表し静かな自動車を設計するための学術上の貢献をした。

本会は審査の結果その自動車技術向上に寄与せる功績顕著なるを認め第9回自動車技術会賞を授与する。

昭和34年4月21日

自動車技術会賞審査委員会委員長 川田正秋
社団法人 自動車技術会会長 豊田英二

賞 状

1. 模型によるタイヤの力学的研究 (論文)

運輸技術研究所自動車性能部
構造研究室長 斎藤安君
研究員 田中健一君

右は在来日本において研究の甚だ少ないタイヤと路面との関係についての力学につき模型による実験の便利なことに着目し、特別の測定方法を考案し、既に幾多の重要な事項を解明し、自動車の高速時における走行安全のため学術上の貢献をした。

本会は審査の結果その自動車技術向上に寄与せる功績顕著なるを認め第9回自動車技術会賞を授与する。

昭和34年4月21日

自動車技術会賞審査委員会委員長 川田正秋
社団法人 自動車技術会会長 豊田英二

5. 学術講演会

12時半より2会場にわかれ、学術講演会が行われ、参加者数250名で5時半盛會裡に終了した。

なお、講演内容は第2表のとおりである。

6. 懇親会

午後6時よりおなじく学生会館において、懇親会を開催し、参集者50名で盛會であった。

〔第2日〕4月22日(水)下記の班にわかれ、見学会を行った。

第1班 東京電波塔

東京電力(株) 豊州発電所 (参加者13名)

第2班 三菱日本重工業(株) 東京自動車製作所

(株)市川製作所 (参加者41名)

第3班 (株)荏原製作所

日本航空整備(株) (参加者36名)

賞 状

1. 自動車用小型ディーゼル機関の実用化

新三菱重工業株式会社京都製作所技術部
設計係長 関 真治君

右は日本において開発のおくれていた自動車用小型軽量の高速ディーゼル機関の研究設計を行い、馬力当りの重量性能においてこの種の機関における世界最高位に位するものを実用に至らした。

本会は審査の結果その自動車技術向上に寄与せる功績顕著なるを認め第9回自動車技術会賞を授与する。

昭和34年4月21日

自動車技術会賞審査委員会委員長 川田正秋
社団法人 自動車技術会会長 豊田英二

第4班 三菱日本重工業(株) 横浜造船所

日本石油精製(株) 横浜製油所

(参加者17名)

第5班 東京機器工業(株)

プレス工業(株)

(参加者38名)

第2表 学 術 講 演 会

No.	第1会場		No.	第2会場	
	講演題目	講演者(所属)		講演題目	講演者(所属)
1	シクロメッシュ式トランスミッションの作動性能について	室木 巧 (東洋工業)	12	プラスチックダイの実用化	池田輝男 (日野) ◎相賀潤二郎(〃)
2	Vベルト自動変速機について	◎浅野弥祐(千葉大) 中馬敏隆(〃)	13	機械構造用炭素鋼の焼入性について	裏川康一 (神戸製鋼)
3	三菱トーションナルダンパについて	石塚瑞郎 (三菱日本)	14	実績よりみた鍛造型钢に関する統計的解析	石田 宏(いすゞ)
4	車両のローリング防止装置について	◎三木 淳(トヨタ) 鈴木重治(〃)	15	ハイボイド歯車生産上の技術管理について	高橋幸一 (日産)
5	連続波状路走行による自動車の運動	山本隆雄(群馬大) ◎島田文平 (トーハツ)	16	ころがり軸受の微動摩擦の減少法	伊藤制儀 (東洋ベアリング)
6	自動車車体の応力頻度に関する一考察	川合平夫 (新三菱名古屋)	17	自動車の走行オクタン価について	石井達一 (日産) ◎小林 誠(〃)
7	不規則変動応力の表示と疲労強度への適用性	藤原和典(選研)	18	オールウェザー型前照灯について	市橋健二郎 (富士精密)
8	二輪自動車の操縦性に関する実験	◎景山克三(日大) 傅 啓泰(〃)	19	自動車電波雑音防止について	蓑妻二三雄 (電波管理局)
9	自動車用ターボ・スーパージョージャーについて (第3報)	塚川 知(いすゞ)			
10	小型2-サイクルエンジンの排気系の研究	山田英夫(東工大) 松岡 信 (〃) 高木英匡 (〃) ◎長谷川久人 (〃)			
11	小型2-サイクル機関の掃気効率について	◎大東俊一 (大阪市大) 北尾正幸 (〃)			